

Lv.999の村人

井 上 正 道

奨励者紹介[いのうえ・まさみち]

日本キリスト教団長浜教会牧師

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。

(コリントの信徒への手紙一 3章6節)

皆さん、おはようございます。私は、滋賀県北部にある長浜教会の牧師をしている井上正道といいます。今回、この同志社大学での礼拝の奨励のお話をいただき、長い間どのようなお話をすればよいのかということを考えていました。そんなことを考えている中で、今回まず私の苦手なことをお話しさせていただきたいと思ったのです。

さて、皆さんはコンピューターゲームをしますか。現在においてコンピューターゲームは幅広いものとなっており、今やゲーム業界はテレビゲームだけではなく、パソコン、スマホでのゲームも、ものすごく人気なコンピューターゲームのコンテンツとなっています。それに伴って新たにeスポーツと呼ばれるプロゲーマーの団体が有名となり、現在ゲームだけで生計を成り立たせている日本人が約250名もおられるそうです。このように、現代において、ゲームというものが数年前から私たちの社会の中でもかなり近い存在となってきています。また、一部では現在のゲーム普及率などを見て第3次ゲーム黄金期とも呼ばれるほどに、ゲーム業界が成長し続けている時代となっています。テレビゲームでいえばソニーが展開するプレイステーションがあり、任天堂にはニンテンドースイッチがあります。そして、パソコンゲームではゲーム専用のハードができ、それに伴い今ではパソコンに内蔵されているCPUでさえもゲームに特化させているものが作られています。そして、スマホゲームでは10年前ほどのテレビゲーム機を超える画質と高音質を完成させ、手元で少し前に流行ったゲームができるようになるなど、目まぐるしいほど進化を遂げているのが現状なのだそうです。

わたしの苦手な物

さて、このコンピューターゲームなのですが、散々ここまでゲームに関してお話しさせてもらってなんですが、私はコンピューターゲームというものが実は苦手なのです。そして特にゲームの中でも、RPG(ロールプレイングゲーム)が苦手なのです。オープンワールドと呼ばれるジャンルが流行しているため、今でこそRPGというものは数が少なくなっているかと思いますが、一昔前までRPGというジャンルはゲームの王道の種類でした。今でも続いているものでいえば、ドラゴンクエストやファイナルファンタジーなどゲーム時代を築いてきたものが数多く存在しています。このRPGの何が苦手なのかというと、レベルを上げてストーリーを進めることが苦手なのです。これを言ってしまうと、RPGの醍醐味ともいえる部分を否定しているようにも思えるのですが、私はゲームが進行していく過程の中で敵が強くなり、その敵に勝つためにレベルを上げて進むことに飽きてしまうのです。敵に勝つためにぎりぎりのレベルを上げるのではなく、余

裕をもって敵に勝って進みたいと思ってしまう私は、いつの間にかそのゲームに飽きてしまい、次第にゲームをやらなくなってしまう性格なのです。そして、私はゲームをやっているいつもこう思うのです。始めた時から最強だったらいいのにな・・・と。それは、ゲームが好きな人からしてみればありえないことだとは思いますが。自分でキャラクターを強化して、強い敵を倒してその先にあるストーリーを味わうことこそがRPGなのです。それを初めからキャラクターが最強で簡単に敵を倒して、そのストーリーを見るのではあまりにも物足りなさを感じると思います。しかし、私自身はゲームに途中で飽きてしまうぐらいなら初めから、キャラクターが最強だったらとりあえず全部クリアするのになと思ってしまうため、そのたびに私はやっぱりゲームは向いてないなと思うのです。私の数ある苦手な物の一つがゲームであることを、自己紹介の一つとしてお話しさせていただきました。

パウロという人物

さて、今回お読みいただいた聖書箇所なのですが、このコリントの信徒への手紙一3章は、コリント地方に住む人々に対してパウロという人物があることを伝えた聖句となっています。この部分でパウロは、当時コリント地方で同じキリスト教を信じていた人々の間で生じていた分裂に対して、教会としての働きを教えています。ここで言われていることは特に難しいことではありません。まず信仰という種を蒔いたのがパウロであり、そこに同じ旅をしていたアポロが水をまいた。つまり、教会としての土台をアポロが作り上げていった、ということが伝えられています。その2人が一つの教会を作り上げていった結果、そこに住む人々はパウロ派とアポロ派に分裂してしまい、どちらの派がえらいのか、またはその主導的な利権を持っているのか、人々の間で優劣をつけようとしてしまったのです。そこでパウロは人々に対して、育ててくださるのは神であると伝えます。あくまでもパウロとアポロの2人は、種をまいて水をあげただけなのです。その種を育ててくださるのは最終的には神であって、人は共に神の恵みを受けるために協力して生きていかなければならないことを求め、神の恵みを受けるためにはどう生きていくのかという課程が大切であることを教えている箇所なのです。このパウロという人は、元々ユダヤ教の中である程度権力をもち、キリスト教を迫害する側の人間でした。しかしある時、目の前が見えなくなり、イエスの弟子に目を開けられ見えるようになったことから、イエスを信じて世界中へとキリスト教を広めた人物の一人として今も覚えられています。それこそ、敵であった人間がある時から急にキリスト教の宣教を行っていったのです。元々キリスト教を敵としてみなし、迫害し傷つけてきた人間が、神のために働くため、共に協力して生きていきなさいと人々に教えているのです。そのため、今回お読みした箇所は読み手に強烈な違和感を与えかねない聖句でもあると私は思います。それこそ、一度敵としてあった人間がいきなり仲間のようになったとしても、そこには不信感しか生まれずに、なかなか人々から受け入れられなかったと思うのです。しかし、そんな中でもパウロは、責任をもって人々にキリスト教を伝え続けた。自分の生涯をかけて反省をしながら少しずつ前へと進み、最終的にはキリスト教を最も世界中に伝えた人物となったのです。その努力と積み重ねは聖書では決して見えない部分であり、想像の範疇でしかありませんが、パウロ自身宣教において相当苦勞し、孤独をおぼえた旅であったと思うのです。苦勞を知り、一歩ずつ歩んだパウロだからこそ、共に生きていくことが大切であるという言葉で、ここで人々に対して語れているのではないかと思います。それは、結果が与えられるまでにどのような生き方をしたか、また、どのような生活をこれから送っていくかを

自分と照らし合わせながら、自分と人々に問うた聖句なのだと私は受け取ったのでした。

今回の奨励題なのですが、私は「Lv.999の村人」という題をつけさせてもらいました。この奨励題のモチーフとなっているのが、ある漫画のタイトルです。最高のレベルをもった村人が敵を倒していくというRPGが苦手な私にとって最も理想的なタイトルがつけられている漫画があるのです。この漫画の内容に関しては特に触れませんが、あらすじだけ伝えとすれば、ある村人の主人公がレベル999の状態で異世界に生まれ、その中で人間の敵である魔族や魔族を退治する勇者たちと出会っていきます。そして、その出会いの中で、どうすれば人間と魔族が共生できるのかということ、主人公を中心に実践していく漫画となっています。この漫画の中で主人公に協力する魔族と人間の姿が描かれていくのですが、敵対する人々は、主人公の人間性や考え方に惹かれて従います。主人公は圧倒的なレベルの違いを見せつけ周りを従わせるのではなく、自らがもつ人間性と想いを用いて社会に存在する固定概念を壊し、敵味方関係なく共生できる社会を作ろうとする話が描かれています。この漫画で主人公は、レベル1という最弱の村人から経験を積み、最大のレベルを手に入れました。レベルを獲得したことが大切なのではなく、村人は弱いという固定概念を壊し、レベル999を手に入れる過程にこそ意味があるのです。自分の弱さを認め、弱さを知っているからこそ周りにいる人々からの信頼を得ることができる。決して力をもっているから信頼を受けているわけではありません。今回お読みいただいた聖書箇所では、言っている内容は異なりますが、神の恵みを受けるために人は共に生きていかなければならないことをパウロは教えています。それは、どちらが力をもっているか、また、どちらが正しい選択を出来ているか、ということを求めているわけではありません。神が育ててくださるため、神に身を委ねて生きていくために人はどう生きるのかを考えていかなければならないのです。力の強さや与えられる結果が大切なのではなく、その歩みの過程こそ大切にしなければならぬことを今回の聖句は教えています。

過程が大切・・・

私を含めて人という存在は、すぐに結果を求めてしまいます。実力主義とでも言いましょうか。結果が伴わなければその人がやっていることすらも無意味であると捉えてしまう存在です。そして、結果を出し続ける人だけが認められる社会形成がなされています。そのため、人は内容よりも先に物事をどう有利に進めることができるかという、過程を無視した結果を求めてしまうのです。私は、今回お話の始めにコンピュータゲームを取り上げました。今流行しているゲームではプレイ時間をかけて「何か欲しいアイテム」を手に入れるのではなく、ゲームに課金することによりほしいアイテムを一瞬にして手に入れることができます。お金の使い方が変化しているそうです。それが悪いとは思いませんが、「簡単に強くなれる」という人の弱い心理を利用してソフト購入以上のお金を使ってもらう仕組みを作り上げています。それは本当のゲームの楽しみ方なのでしょうか。もちろん人それぞれ楽しみ方があるかと思いますが、そのようにお金をかけて一瞬にして他のプレイヤーよりも強くなるのが本当に楽しいのか、私は疑問に思っています。苦労して一つひとつをクリアしていくその過程が、本来のゲームの楽しみ方ではないのかとふっと思わされるのです。そして、これは人の生き方も同じことだと私は考えさせられます。人生においてゲームのような課金システムはありません。どうあがいたところで、自分のスキルを上げるためには自分が努力するしかあ

りません。しかし、その努力に見合った報酬というものが与えられるかどうかは、自分で決めることができないのです。それを決めるのは、社会であり、周りにいる組織です。人の努力は必ずしも認められるものでもないという今の社会があります。先ほど言ったとおり、今の社会にとっての結果が求められ、そのために人は数字や名誉を求める。そして、その成果により、周りから認められさまざまな報酬が与えられる。今の世の中はその人がどれほど努力しようがまいが関係ない社会なのです。そんな世の中を私たちが歩む中で、私は今回お読みした聖句を思い返していきたいと思います。私たちは必ず人や物を通して何かやってみたい、こうなりたい、というきっかけが与えられます。そして、そのきっかけから自分の目標に向かって歩み始めます。その達成する目標に向かう段階の「歩み」という過程を大切にしていきたいと思うのです。人が何か挑戦をする時、いきなりレベル999の状態、つまり、いきなり最強ということもありえません。もしそんなことがあれば、人は経験や思い出をもつこともありません。人は一つひとつ努力を重ね経験を積んで歩いていく存在です。その結果、私たちには仲間や知識が必ず与えられます。その与えられた仲間や知識をもって、自分の道をこれからも神に委ねて歩いていきたいと思うのです。必ずしも自分の望む結末が与えられないかもしれませんが、しかし、その私たち一人ひとりが歩んだ道を大切にしたら結果、成果よりもより多くの恵みが与えられる人生になっていくことを、今回の聖句から学んでいきたいと思うのです。

〔注〕

1 漫画 岩元健一 『LV999の村人』 原作 星月子猫 キャラクター原案 ふーみ KADOKAWA 2017年

2022年1月19日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録